

5 展開例

マット運動 【第1学年及び第2学年】

(1) 目標

- 技がよりよくできたり，その発展的な技を習得することができるようにする。 (技能)
- 回転したり支持したりというマット運動の特性に関心をもち，技ができる楽しさや喜びを味わおうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の系統性に基づいた練習の進め方を理解し，できる生徒の動きから技のポイントを見付けたり，できない生徒の動きの修正点を指摘したりすることができるようにする。 (知識，思考・判断)

(2) 展開 (3 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	1 集合，整列，挨拶 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠，見学の確認をし，健康観察をする	○素早く整列させ，元気よく挨拶をさせる。 ○表情や動きから，生徒個々の健康状態を観察するとともに，欠席者・見学者のを把握する。 (見学者がいる場合には，可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード
		2 本時の学習内容，ねらいを確認する。		
		本時のねらい マット運動特有の動き方を習得しグループの技に挑戦する		
		3 器械，用具の準備 4 準備運動をする。 ・グループ毎にまとまって行う。	○実際に手で触るなどして，器械，用具の安全を確認するよう助言する。 ○リーダーを中心にしっかり行うよう促す。 ○使用する各関節などについて，十分にストレッチさせる。 ○回数を決めたり，カウントをしたりして，能率良く機敏に行わせる。	
なか	30分	5 前時までの復習 ・前転グループ ・後転グループ の基本技及び発展技を復習し，よりよくできるようにする。 6 新しい技の練習 ・倒立回転跳びグループ ・跳ね起きグループ の技に挑戦する。 ・一通り説明を受けたら，自分の能力に合った技に取り組む。 ・生徒同士でアドバイスをし合い，互いの技能を高め合うようにする。	○技の系統性に基づいた練習段階を設定する。 ○前時までに扱ったグループの技を参考にして本時の課題に関連する技を選ぶよう助言する。 ☆仲間とともに協力しながら活動し，技ができる楽しさや喜びを味わおうとしている。 【関・意・態】① (行動観察) 「努力を要する生徒」に対し，協力しながら挑戦する楽しさについて個別に説明し意欲を引き出す。 ○自分の能力に合った技を選択するよう促す。 ○資料等を参考に，新しく習得しようとする技の練習段階と方法を解説する。 ○資料等を参考に，それぞれの技のポイントを具体的に解説する。 ☆提示された課題解決の練習方法の中から自己の能力に適した練習を選択している。 【思・判】② (実技観察・学習ノート) 「努力を要する生徒」に対し，これまでの資料や仲間のアドバイスを参考に練習を再考するよう促す。	資料

ま と め	10 分	7 整理運動, 後片付け	<ul style="list-style-type: none"> ○使った部位を中心にゆっくりと大きな動作で行うよう声をかける。 ○協力して, 能率的に片付けるよう促す。 ○表情や動きから, 生徒一人一人の健康状態を把握する。 	
		8 本時の学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々や全体の学習状況を講評し, 課題を確認するとともに成果を賞賛し, 次時への意欲化を図る。 	
		9 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○元気よく挨拶をさせる。 	

マット運動【第3学年】

(1) 目標

- できるようになった技を組み合わせで演技できるようにする。 (技能)
- 他の生徒のしている前で自分の技や演技を発表したり、他の生徒の発表を観察評価したりすることに積極的に取り組もうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の組み合わせや演技を評価するためのポイントを理解し、自分や他の生徒の発表をこれまでの学習に基づいて適切に評価できるようにする。 (知識、思考・判断)

(2) 展開 (8 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	1 集合、整列、挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠、見学の確認をし、健康観察をする 2 本時の学習内容、ねらいの確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 本時ねらい 発表会に向けて、技の組合せを発展させて演技を構成する </div>	○素早く整列させ、元気よく挨拶をさせる。 ○表情や動きから、生徒個々の健康状態を観察するとともに、欠席者・見学者のを把握する。(見学者がいる場合には、可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード
なか	30分	3 器械、用具の準備をする。 4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。 5 自分の演技を構成する。 ・これまでに練習してきた技の組み合わせを発展させ、オリジナルの演技を作成する。 6 演技の完成度を高める。 ・発表会にむけて、自ら構成した演技をよりよく実施できるようにする。 (練習の例) ・全体の流れを意識し、技を連続する練習 ・技の接続を意識した練習 ・目標技を入れた連続演技の練習 7 生徒同士で相互評価をする。 ・グループをつくり、発表会のリハーサルを行う。	○実際に手で触るなどして、器械、用具の安全を確認するよう助言する。 ○リーダーを中心にしっかり行うよう促す。 ○使用する各関節などについて、十分にストレッチさせる。 ○回数を決めたり、カウントをしたりして、効率良く機敏に行わせる。 ○スムーズに連続できることを優先して技を組み合わせるよう助言する。 ○資料を参考にして、各グループからバランスよく技を選択するよう助言する。 ○個々の技の習熟度を高めるとともに、演技全体の完成度が高まるよう助言する。 ○発表会にふさわしい演技となるよう、巡回しながら個に応じたアドバイスをする。 ☆できる技を組み合わせで、連続技を行うことができる。 【技能】④ (実技観察) 「努力を要する生徒」に対し、個別に説明したり示範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援する。	資料 (サンプル)

			<p>☆互いに仲間の試技に対して補助をしたり，行い方などの助言をしたりしようとする。</p> <p>【関・意・態】④（行動観察・発言）</p> <p>「努力を要する生徒」に対し，協力することの大切さについて個別に話をする。</p>
ま と め	10 分	8 整理運動と片付けをする。	<p>○使った部位を中心にゆっくりと大きな動作で行うよう声をかける。</p> <p>○協力して，能率的に片付けるよう促す。</p> <p>○表情や動きから，生徒一人一人の健康状態を把握する。</p>
		9 本時の学習の振り返り	<p>○生徒個々や全体の学習状況を講評し，課題を確認するとともに成果を賞賛し，次時への意欲化を図る。</p>
		10 あいさつ	<p>○元気よく挨拶をさせる。</p>

(学習カード①を参照)

鉄棒運動【第1学年及び第2学年】

(1) 目標

- 新しい技ができるようになり、質を高め、習熟度を高めることができるようにする。 (技能)
- 習得していないグループの技に関心を持ち、新たに習得する楽しさや喜びを味わおうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の系統性とその技術に基づいた練習の進め方を理解し、新たに習得しようとする技のポイントを他の生徒の動きから見付けたり、練習の仕方を工夫することができる。 (知識、思考・判断)

(2) 展開 (6 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	1 集合、整列、挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠、見学の確認をし、健康観察をする	○素早く整列させ、元気よく挨拶をさせる。 ○表情や動きから、生徒個々の健康状態を観察するとともに、欠席者・見学者のを把握する。 (見学者がいる場合には、可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード
		2 本時の学習内容、めあての確認をする。 本時のねらい 新しい技を身に付けたり、できる技を組み合わせた		
		・今できる技と同じグループから自分の能力に応じた新しい技を選択して、練習方法を考える。	○技の系統性や技能の構造について理解させる。	
		3 器械、用具の準備をする。	○器械、用具の安全を確認しながら準備させる。	
		4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。	○リーダーを中心にしっかり行わせる。 ○特に各関節など使用する部位は十分ストレッチさせる。 ○回数を決めたり、カウントをしたりして、能率良く機敏に行わせる。	
なか	30分	5 既習技の練習をする。 ・技能のポイントを考慮しながら復習する。 (膝かけ振り上がり) ・振り足をあまり使わないようにする。 ・上昇回転を勢いよく行う。	○何にポイントをおいて既習技の復習をしているのかを確認させる。	資料
		6 新しい技の練習 (膝かけ上がり) ①新しい技のポイントを理解する。 ②技能のポイントを確かめながら技能を身に付ける。 ・懸垂姿勢で前に踏み込み、振り戻りにタイミングを合わせて足や膝を鉄棒にかける練習をする。 ・かける脚と反対の脚もしっかり持ち上げる。	○自分の能力に応じた技を選択しているか、技の習得に応じた練習方法をとっているかを確認させながら、新しい技の習得に必要な助言や補助を行わせる。 ○互いに安全確保や補助を適切に行えるよう助言する。 ○互いの技や練習を適切に評価するよう促す。 ○自己の課題に適した練習方法で課題を解決することができる。	

		<p>・脚や膝がうまくかからない場合は、踏み切り位置に踏み切り板を置いたり、補助者が学習者の腰を支えたりして脚の振り上げを援助する。</p>	<p>☆段階的な練習を通して発展した技を身に付けることができる。</p> <p>【技能】③（実技観察） 「努力を要する生徒」に対し、個別に説明したり示範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援する。</p> <p>○お互いに補助をし合ったり、助言し合って、協力して練習に取り組んでいる。 ○段階的な練習を通して、新しい技を身に付けることができるよう促す。</p>
まとめ	10分	<p>7 整理運動と片付けをする。</p> <p>8 本時の学習の振り返り</p> <p>9 あいさつ</p>	<p>○使った部位を中心に行わせる。 ○協力し合ってスムーズに片付けさせる。</p> <p>○生徒それぞれの新しい技への取り組みを概評し、本時を振り返るとともに、次への課題設定を促す。</p> <p>☆それぞれの種目や系、技群、グループによって高まる体力が異なることを理解している。 【知・理】③（発言・学習ノート） 「努力を要する生徒」に対し、資料などの重要な部分にラインを引かせるなど個別に支援する。</p> <p>○健康チェックを行う。</p>

(学習カード②を参照)

鉄棒運動【第3学年】

(1) 目標

- 運動の先取りによって、技と技とをスムーズに組み合わせることができるようにする。 (技能)
- 自分のもち技を組み合わせることに楽しさを感じ、積極的にそのバリエーションを増やそうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の組み合わせ方のバリエーションを多く知り、互いの演技を観察し合い、改善すべき点を的確に指摘し合うことができるようにする。 (知識、思考・判断)

(2) 展開 (8 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	1 集合、整列、挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠、見学の確認をし、健康観察をする 2 本時の学習内容、ねらいの確認をする。	○素早く整列させ、元気に挨拶をさせる。 ○表情や動きから、生徒個々の健康状態を観察するとともに、欠席者・見学者のを把握する。(見学者がいる場合には、可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード
		本時のねらい 新しい技を一人でできるようにし、さらに習熟性を高める	3 器械、用具の準備をする。 4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。	○器械、用具の安全を確認しながら準備させる。体調の変化や器械・器具や練習場所の安全に配慮するとともに、自己の技能・体力に応じた技の選択をし、安全に活動しようとする。 ○リーダーを中心にしっかり行わせる。 ○特に各関節など使用する部位は充分ストレッチさせる。 ○回数を決めたり、カウントをしたりして、能率良く機敏に行わせる。
		5 技の組み合わせサンプルの復習をする。 例①逆上がり→前方支持回転→棒下振り出し下り 例②片膝かけ上がり→片膝かけ後方回転→踏み越し下り 例③け上がり→前方支持回転→棒下振り出し下り 例④け上がり→後方浮き支持回転→片膝かけ上がり→後方足裏支持棒下振り出し下り 例⑤け上がり→後方浮き支持回転→片膝かけ上がり→膝かけ後転→後方足裏支持棒下振り出し下り	○いろいろな技のグループから基本技を選び出し、運動方向や難易度を考慮したいろいろな組み合わせのサンプルを用意する。(一斉指導) ○簡単で単純な技の組み合わせから、徐々に難しく複雑な組み合わせのものへ移行していく。 ○技を組み合わせる際には、後続の技の開始局面を先取りし、できるだけスムーズに技と技とがつながるよう注意を促す。 ○技能レベルや目標の近い生徒を集め、協力して練習を進めさせる。 ○必要に応じて、互いに補助し合うようにさせる。	資料 (サンプル)

<p>な か 30 分</p>	<p>6 グループ練習をする。 * 3グループに分かれる。 A：サンプルをしっかりとマ スターしたいグループ B：サンプルをもとに基本 技を中心とした技の組 み合わせをつくりたい グループ C：発展技を含む、より高 度な技の組み合わせに チャレンジしたいグル ープ 〈Aグループ〉 ・例①～⑥のうち、まだマ スターできていないもの を順に各自練習する。 〈Bグループ〉 ・例①～⑥に含まれる基本 技や自分のできるその他 の技の中から得意な技を 選択して、自分なりの技 の組み合わせをつくる。 〈Cグループ〉 ・今チャレンジしている発 展技の習得をめざす。</p> <p>7 自分独自の技の組み合わ せづくり。 ・できる限り別の系統の技 を5つ以上選び出し、組 み合わせる。</p>	<p>○生徒の選択した技の組み合わせ方の例を適宜 アドバイスする。</p> <p>○各自の技能に相応しくない技を選択していな いかチェックする。</p> <p>☆仲間と活動する際、互いの動きの違いを相手 に伝えている。</p> <p>【思・判】④（行動観察） 「努力を要する生徒」に対し、判断の参考になる資 料を提示したり個別に説明したりして支援する。</p> <p>○生徒の選択した技の組み合わせ方の例を適宜 アドバイスする。</p> <p>○同じ系統の技に偏っていないかチェックする。</p> <p>☆できる技を組み合わせで連続技を構成し、滑 らかに行うことができる。</p> <p>【技能】④（実技観察） 「努力を要する生徒」に対し、個別に説明したり示 範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援 する。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>8 整理運動と片付けをする。</p> <p>9 本時の学習の振り返り</p> <p>10 あいさつ</p>	<p>○使った部位を中心に行わせる。</p> <p>○協力し合ってスムーズに片付けさせる。</p> <p>○技の組み合わせのよい例を紹介する。</p> <p>○生徒の選択した技の組み合わせ方の例を適宜 アドバイスする。</p> <p>○次時への課題設定を促す。</p> <p>○健康チェックを行う。</p>

平均台運動 [第1学年及び第2学年]

(1) 目標

- 技がよりよくできたり, その発展的な技を習得することができるようにする。 (技能)
- バランスを保つという平均台運動の特性に関心を持ち, 技がよりよくできたり, その発展的な技を習得したりする楽しさや喜びを味わおうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の系統性に基づいた練習の進め方を理解し, できる生徒の動きから技のポイントを見付けたり, できない生徒の動きの修正点を指摘したりすることができるようにする。 (知識, 思考・判断)

(2) 展開 (3 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	1 集合, 整列, 挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠, 見学の確認をし, 健康観察をする	○素早く整列させ, 元気よく挨拶をさせる。 ○表情や動きから, 生徒個々の健康状態を観察するとともに, 欠席者・見学者のを把握する。 (見学者がいる場合には, 可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード
		2 本時の学習内容, めあての確認をする。		
		本時のねらい 平均台特有の動き方を習得し, 各グループの技に挑戦する		
なか	30分	3 器械, 用具の準備をする。	○器械, 用具の安全を確認しながら準備させる。	資料
		4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。	○リーダーを中心にしっかり行わせる。 ○特に各関節など使用する部位は十分ストレッチさせる。 ○回数を決めたり, カウントをしたりして, 能率良く機敏に行わせる。	
		5 前時までの復習をする。 ・歩・走グループ ・ポーズグループ の基本技及び発展技を復習し, よりよくできるようにする。	○技の系統性に基づいた練習段階を設定させる。 ○前回までに扱ったグループの技の中から, 本時の課題に関連する技を選び出して, 実施させる。	
		6 新しい技の練習 ・ターングループ ・跳躍グループ の技に挑戦する。 ・ひととおりの説明を受けたら, 自分の能力に合った技に取り組む。 ・生徒同士でアドバイスをし合い, 互いの技能を高め合うようにする。	○自分の能力に合った技を選択させる。 ○新しく習得しようとする技の練習段階と方法を理解させる。 ○技のポイントを具体的に示す。 ☆提示された課題解決の練習方法の中から自己の能力に適した練習を選択している。 【思・判】② (実技観察・学習ノート) 「努力を要する生徒」に対し, これまでの資料や仲間のアドバイスを参考に練習を再考するよう促す。	

ま と め	10 分	7 整理運動と片付けをする。	○使った部位を中心に行わせる。 ○協力し合ってスムーズに片付けさせる。 ○健康チェックを行う。	
		8 本時の学習の振り返り ・本時で行った技のポイントや練習方法を記録する。 ・次時の課題を理解する。	○生徒それぞれの新しい技への取り組みを概評し、本時を振り返るとともに、次への課題設定を促す。 ☆仲間とともに協力しながら活動し、技ができる楽しさや喜びを味わおうとしている。 【関・意・態】①（行動観察・発言・学習ノート） 「努力を要する生徒」に対し、協力することの大切さについて個別に話をする。	
		9 あいさつ		

(学習カード③を参照)

平均台運動 [第3学年]

(1) 目標

- できるようになった技を組み合わせで演技できるようにする。 (技能)
- 他の生徒のしている前で自分の技や演技を発表したり，他の生徒の発表を観察評価したりすることに，積極的に取り組もうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の組み合わせや演技を評価するためのポイントを理解し，自分や他の生徒の発表をこれまでの学習に基づいて適切に評価できるようにする。 (知識，思考・判断)

(2) 展開 (8 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料	
はじめ	10分	1 集合，整列，挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠，見学の確認をし，健康観察をする	○素早く整列させ，元気に挨拶をさせる。 ○表情や動きから，生徒個々の健康状態を観察するとともに，欠席者・見学者のを把握する。 (見学者がいる場合には，可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード	
		2 本時の学習内容，ねらいの確認をする。			
		本時のねらい 発表会に向けて，技の組合せを発展させて演技を構成する			
		3 器械，用具の準備をする。	○器械，用具の安全を確認しながら準備させる。		
		4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。	○リーダーを中心にしっかり行わせる。 ○特に各関節など使用する部位は充分ストレッチさせる。 ○回数を決めたり，カウントをしたりして，能率良く機敏に行わせる。		
なか	30分	5 自分の演技を構成する。 ・これまでに練習してきた技の組み合わせを発展させ，オリジナルの演技を作成する。	○自分の能力に合った技を選択させる。 ○各グループからバランスよく技を選択させる。	資料 (サンプル)	
		6 演技の完成度を高める。 ・発表会にむけて，自ら構成した演技をよりよく実施できるようにする。 (練習の例) ・床の上で技を入れないで演技を連続する練習 ・低い平均台の上でできる技を入れた連続演技の練習 ・高い平均台で技を入れた連続演技の練習 ・目標技を入れた連続演技の練習	○個々の技の習熟度を高めるとともに，演技全体の完成度が上がるようにする。 ○発表会にふさわしい演技を作成させる。 ☆できる技を組み合わせで連続技を構成し，滑らかに行うことができる。 【技能】④ (実技観察) 「努力を要する生徒」に対し，個別に説明したり示範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援する。		

		<p>7 生徒同士で相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり，発表会のリハーサルを行う。 	<p>○個々の技および演技全体の習熟度について，生徒同士で評価し合い，修正する。</p> <p>☆互いに仲間の試技に対して補助をしたり，行い方などの助言をしたりしようとする。</p> <p>【関・意・態】④（行動観察・発言）</p> <p>「努力を要する生徒」に対し，協力することの大切さについて個別に話をする。</p>	
ま と め	10 分	<p>8 整理運動と片付けをする。</p> <p>9 本時の学習の振り返り</p> <p>10 あいさつ</p>	<p>○使った部位を中心に行う。</p> <p>○協力し合ってスムーズに片付けさせる。</p> <p>○技の組み合わせのよい例を紹介する。</p> <p>○次時への課題設定を促す。</p> <p>○健康チェックを行う。</p>	

跳び箱運動 [第 1 学年及び第 2 学年]

(1) 目標

- 技がよりよくできたり, その発展的な技を習得することができるようにする。 (技能)
- 跳び箱を跳躍して飛び越すという跳び箱運動の特性に関心をもち, 技がよりよくできたり, その発展的な技を習得したりする楽しさや喜びを味わおうとすることができるようにする。 (態度)
- 技の系統性に基づいた練習の進め方を理解し, できる生徒の動きから技のポイントを見付けたり, できない生徒の動きの修正点を指摘したりすることができるようにする。 (知識, 思考・判断)

(2) 展開 (3 / 1 0)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	<p>1 集合, 整列, 挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列 ・出欠, 見学の確認をし, 健康観察をする</p> <p>2 本時の学習内容, めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">本時のねらい 跳び箱特有の動き方を習得し, 各グループの技に挑戦する</p> </div> <p>3 器械, 用具の準備をする。</p> <p>4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。</p>	<p>○素早く整列させ, 元気よく挨拶をさせる。</p> <p>○表情や動きから, 生徒個々の健康状態を観察するとともに, 欠席者・見学者のを把握する。(見学者がいる場合には, 可能な学習や役割等を指示する。)</p> <p>○器械, 用具の安全を確認しながら準備させる。</p> <p>○リーダーを中心にしっかり行わせる。</p> <p>○特に各関節など使用する部位は十分ストレッチさせる。</p> <p>○回数を決めたり, カウントをしたりして, 能率良く機敏に行わせる。</p>	<p>黒板</p> <p>学習カード</p>
なか	30分	<p>5 前時までの復習をする。 ・繰り返し跳びグループ ・回転跳びグループの基本技及び発展技を復習し, よりよくできるようにする。</p> <p>6 新しい技の練習 ・回転跳びグループの技に挑戦する。 ・ひとつおりの説明を受けたら, 自分の能力に合った技に取り組む。 ・生徒同士でアドバイスをし合い, 互いの技能を高め合うようにする。</p>	<p>○技の系統性に基づいた練習段階を設定する。</p> <p>○前回までに扱ったグループの技の中から, 本時の課題に関連する技を選び出して, 実施させる。</p> <p>☆自己の能力に適した基本的な技の技能を高め, よりよくできる。 【技能】① (実技観察) 「努力を要する生徒」に対し, 個別に説明したり示範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援する。</p> <p>○自分の能力に合った技を選択させる。</p> <p>○新しく習得しようとする技の練習段階と方法を理解させる。</p> <p>○技のポイントを具体的に示す。</p>	<p>資料</p>

ま と め	10 分	7 整理運動と片付けをする。	○使った部位を中心に行う。 ○協力し合ってスムーズに片付けさせる。
		8 本時の学習の振り返り ・本時で行った技のポイントや練習方法を記録する。 ・次時の課題を理解する。	○生徒それぞれの新しい技への取り組みを概評し、本時を振り返るとともに、次への課題設定を促す。 ☆技の名称や系統性・技能の構造について理解し、それぞれの技の局面で技術的なポイントがあることを答えたり書き出したりしている。 【知・理】②（発言・学習ノート） 「努力を要する生徒」に対し、資料などの重要な部分にラインを引かせるなど個別に支援する。
		9 あいさつ	○健康チェックを行う。

(学習カード④を参照)

跳び箱運動 [第3学年]

(1) 目標

- できるようになった技の完成度を高めることができるようにする。 (技能)
- 他の生徒のしている前で自分の技や演技を发表或し、他の生徒の発表を観察評価したりすることに、積極的に取り組もうとすることができるようにする。 (態度)
- 演技を評価するためのポイントを理解し、自分や他の生徒の発表をこれまでの学習に基づいて適切に評価することができるようにする。 (知識, 思考・判断)

(2) 展開 (8 / 10)

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援 (○) と評価 (☆)	用具・資料	
はじめ	10分	1 集合、整列、挨拶をする。 ・グループ毎に縦隊に整列する ・出欠、見学の確認をし、健康観察をする	○素早く整列させ、元気よく挨拶をさせる。 ○表情や動きから、生徒個々の健康状態を観察するとともに、欠席者・見学者のを把握する。 (見学者がいる場合には、可能な学習や役割等を指示する。)	黒板 学習カード	
		2 本時の学習内容、めあての確認をする。			
		本時のねらい 発展技を完成させて発表会で演技する			
		3 器械、用具の準備をする。	○器械、用具の安全を確認しながら準備させる。		
なか	30分	4 準備運動をする。 ・チーム毎にまとまって行う。	○リーダーを中心にしっかり行わせる。 ○特に各関節など使用する部位は充分ストレッチさせる。 ○回数を決めたり、カウントをしたりして、効率良く機敏に行わせる。		
		5 自分の演技を選択する。 ・これまでに練習してきた技を発展させ、取り組む発展技を決定する。	○自分の能力に合った技を選択させる。 ○各グループからバランスよく技を選択させる。	資料 (サンプル)	
		6 演技の完成度を高める。 ・発表会にむけて、自ら選択した演技をよりよく実施できるようにする。 (練習の例) ・既習技の復習練習からの発展 ・より難度の高い発展技への挑戦	○個々の技の習熟度を高めるとともに、演技全体の完成度が高まるようにする。 ○発表会にふさわしい演技を作成させる。 ☆段階的な練習を通して発展した技を滑らかに 行うことができる。 【技能】③ (実技観察) 「努力を要する生徒」に対し、個別に説明したり示 範するなどして技能のポイントをつかめるよう支援 する。		

		<p>7 生徒同士で相互評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり，発表会のリハーサルを行う。 	<p>○個々の技および演技全体の習熟度について，生徒同士で評価し合い，修正する。</p> <p>☆互いに仲間の試技に対して補助をしたり，行い方などの助言をしたりしようとする。</p> <p>【関・意・態】④（行動観察・発言）</p> <p>「努力を要する生徒」に対し，協力することの大切さについて個別に話をする。</p>	
ま と め	10 分	<p>8 整理運動と片付けをする。</p> <p>9 本時の学習の振り返り</p> <p>10 あいさつ</p>	<p>○使った部位を中心に行う。</p> <p>○協力し合ってスムーズに片付けさせる。</p> <p>○技の組み合わせのよい例を紹介する。</p> <p>○次時への課題設定を促す。</p> <p>○健康チェックを行う。</p>	